

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月1日実施)	総合評価 (3月13日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	<p>・基礎学力の向上と学習習慣の確立を目指す。</p> <p>・学校の特色である国際理解教育をさらに深化させるための事業を推進する。</p> <p>・学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>・確かな学力の定着に向けた取り組みを推進するとともに、組織的・計画的な授業研修を通じて授業改善に取り組む。</p> <p>・外部試験等を活用した英語力の向上や国際交流の成果共有により、国際理解教育を推進する。</p> <p>・生徒による学校行事や生徒会活動の主体的な運営により、自主性を育て達成感・有用感を醸成する。</p>	<p>(1)EBS(朝の学習)の充実を図り、家庭学習の定着に繋げる。</p> <p>(2)ALC(土曜講習)を組織的に計画し、生徒の進路実現を目指す。</p> <p>(3)「マイレージ通信」を発行し、生徒の学習意欲を喚起する。今年度は6回の発行を目指す。</p> <p>(4)高大連携プログラムを推進し、自ら学ぶ態度を育成する。また、大学からの講師派遣を検討する。</p> <p>(5)体育祭、文化祭、球技大会等の準備・企画運営や参加を通して、生徒の主体性を育成し、生きる力を身につけさせる。</p> <p>(6)授業研修を実施し、アクティブラーニングを取り入れ、より改善された授業を目指した研修を行う。</p> <p>(7)広報等により実用英語技能検定試験の受験を推進する。GTEC Advancedの受験者数を増やす。</p> <p>(8)姉妹校交流報告会を実施し、成果を共有する。</p>	<p>(1)実施回数、生徒の取り組み状況、内容。</p> <p>(2)実施回数、参加生徒数。</p> <p>(3)発行回数、内容。</p> <p>(4)参加生徒数。履修状況。学習効果。</p> <p>(5)生徒会行事の中心になる生徒への助言指導をこまめに行い、課題意識を持たせ、解決に向け取り組ませることができた。</p> <p>(6)職員アンケートの分析。</p> <p>(7)英検準2級、2級の受験者数と取得者数。GTEC Advancedの受験者数。</p> <p>(8)報告会後のアンケートの分析。</p>	<p>(1)122回実施</p> <p>1・2年は基礎的な問題、理解できていない部分は課題で、定着を図った。3年では後半入試問題にまで発展させることができた。</p> <p>(2)ALCは入試対策として、早朝、自由選択時間帯に行われた。3講座実施。</p> <p>(3)定期試験前6回発行。</p> <p>(4)4名参加。桜美林大学コリア語の単位を修得。東京家政学院大学1年生対象食育講演会実施。神奈川工科大学1、2年生対象エネルギー講演会実施。</p> <p>(5)クラスTシャツの作成や体育祭応援団の練習場所等について検討したことにより主体性を育成した。</p> <p>(6)10/2～11/17で実施。すべての教員により70回の公開授業を実施。授業観察終了後に各教科で研究協議。</p> <p>(7)英検は2回校内実施。全受験者数115人。準2級59人受験32人合格(54.2%)、2級38人受験2人合格(5.3%)。GTEC Advanced受験者1年5人、2年13人、3年22人。1年生はGETC Speaking受験。</p> <p>(8)12/22実施。約90%が前よりも理解したと回答。また、80%程度が国際交流活動に参加したいと回答があった。</p>	<p>(1)文系の数学や理系の国語など積極的に取り組ませる必要がある。</p> <p>(2)参加人数が少ないことや不定期な参加が多い。継続的な受講をさせ、入試の実績につなげていきたい。</p> <p>(3)学期初めにも学習のすすめ方などの通信を発行していきたい。</p> <p>(4)連携大学への生徒の関心は強く、今後も連携を図っていきたい。</p> <p>(5)今後助言指導をこまめに行う必要がある。</p> <p>(6)アクティブラーニングの研究も進み、様々な手法で展開されるようになり、教科内で共有されている。</p> <p>(7)英検等の資格が進路に有効であることの広報から、昨年比受験者数は5倍、合格者数は3倍。次年度も継続。</p> <p>(8)アラスカ・レイスロップ高校との交流についての報告会後のアンケート結果とほぼ同様の数値であった。姉妹校交流に対する理解と参加意欲については定着していると思われる。次回の報告会では、部分的にでも英語での報告を期待する。</p>	<p>(4)高大連携プログラムについて、高校生が参加しやすくなるよう大学側へ内容の要望等を出したほうが良い。</p> <p>(6)アクティブラーニングは話し合わせるということが目的であるという職員の認識から改善していかないといけない。</p> <p>(6)アクティブラーニングに不向きな教科科目もあると思われるが、教員の理解が進んで、よく取り組んでいる。</p> <p>(6)公開授業を70回実施したことは素晴らしい。教師は人間性を磨くことと良い授業を提供することが仕事である。</p>	<p>・EBSは学年により、基礎的な内容から発展的な内容まで学習を行えた。内容がマンネリ化しないように継続する。</p> <p>・アクティブ・ラーニングの研究も進み様々な手法で展開され、教員間で共有されるようになった。</p> <p>・GTECで1年からスピーキングを実施した。実用英語技能検定の受験数と合格者を増やすことができた。更に英語力を向上させることが課題。</p> <p>・すべての教員により70回の公開授業を実施し授業観察終了後に各教科で研究協議をすることで授業改善が進んだ。</p> <p>・国際交流活動に対する生徒の理解が90%であった。交流の成果を全生徒が共有できるよう生徒による報告の仕方の改善を工夫する。</p>	<p>・文系の数学や理系の国語など講座内容の更新を行う。</p> <p>・外部講師による高大接続の課題や新学習指導要領に関する職員研修等の検討を行い生徒主体の深い学びにつながる授業改善に取り組む。</p> <p>・GTECのスピーキングを1年と2年で実施し、全校実施に向けて検討する。</p> <p>・授業力向上に向けて2回の研修の内容を改善しながら継続して行う。</p> <p>・国際交流の報告会のプレゼンテーションを一部英語で行うなどの工夫に取り組む。</p>
2	<p>・生徒個々に応じた、支援体制の充実を図る。</p> <p>・生徒の規範意識の醸成を図る。</p> <p>・部活動の活性化を通して責任感や連帯感、感謝の気持ちの涵養を図る。</p>	<p>・教育相談体制や学習支援・生徒支援体制の充実を図るとともに、職員間の情報共有を進める。</p> <p>・基本的生活習慣の定着を図ることで生徒の規範意識を高める。</p> <p>・部活動の活性化</p>	<p>(1)教育相談コーディネーターを中心にSC・SSWとの連携を深め、外部機関の活用にも努める。</p> <p>(2)学年会・ケース会議等生徒の情報の共有を図る。</p> <p>(3)年間2回の全校集会・学年集会・年間5回の生徒指導週間などで、基本的生活習慣の確立を図る。</p> <p>(4)部長会や部活動集会、部活動の主体的行</p>	<p>(1)SC・SSW・保健室の利用状況及び外部機関の活用状況・情報共有の回数。</p> <p>(2)会議等、情報提供の状況確認。</p> <p>(3)生徒の学校生活の状況。</p> <p>(4)部長会や部活動集会を、生徒が主体的に運営することができたか、部活動の主体的行動の取組状況。</p>	<p>(1)SCの利用状況は年間11回来校。1・2学期はほぼ毎回6人が利用。SSWは管轄があることで活用しづらい状況にあった。</p> <p>(2)学年会の他にケース会議6回。いじめ防止・対策委員会3回開催。</p> <p>(3)全校集会2回開催。2学年においては臨時の学年集会を開催。</p> <p>(4)部活動集会(2回)の司会進行を生徒が行い、自主的に校内落ち葉掃きやトイレ清掃を行い、規範意識や責任感、連帯感を高めた。</p>	<p>(1)SCに関しては有効に活用されている。</p> <p>SSWは現在管轄外のSSWと連携できるようにしてほしい。</p> <p>(2)生徒の問題行動の多様化が目立った。</p> <p>(3)生徒指導なのか、教育相談なのか判断の難しい事例が多数あり、外部機関(警察等)との連携を密にする必要がある。</p> <p>(4)取組の継続性を確保できるよう助言指導をする必要がある。</p>	<p>(1)SSWは管轄を超えては活動できないが、緊急の場合の対応がとれるようにするのが良い。</p> <p>(2)人間関係でつまづく生徒の背景に「教育相談」に関するものがあるので、教員間の情報共有は大事である。</p>	<p>・学年会の他にケース会議6回。いじめ防止・対策委員会3回開催し、支援を要する生徒を組織的に支援できた。外部機関との連携については管轄という制約があった。</p> <p>・部活動を通じて生徒の活動の幅を広げられた。</p>	<p>・支援を要する生徒の情報を共有する組織的な会議を定期的に行い支援を早期に行う。</p> <p>・生徒支援と生徒指導の両面で外部機関との連携を進める。</p> <p>・部活動の本来活動を活性化させるとともに地域活動や体験的活動を推奨する。</p>

			化に努めるとともに連帯感や責任感を育成する。	動を通して、規範意識や責任感を育成し、生徒間の連帯感を高める。						
3	進路指導・支援	生徒の自主・自律の精神の涵養を図り、卒業後の希望進路実現に向けて、積極的に社会参加するための能力と態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路データの有効活用を図り、個々の進路実現に向けたきめ細かいキャリアガイダンスに取り組み。</li> <li>総合的な学習の時間やインターンシップ等を活用したキャリア教育の充実を図る。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>年間指導計画・キャリアプランに基づく進路ガイダンスや講演会等を実施する。</li> <li>学力診断テストや外部業者の模擬試験を実施し、判定システム等の活用により、総合的に進路適性を判断させる。</li> <li>インターンシップ教育の推進。</li> <li>面談等による細やかな進路指導を展開する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>実施回数、卒業時の進路実績、アンケートによる生徒の満足度。</li> <li>各模試の受験者数、模試のデータに基づく面談数。</li> <li>インターンシップ参加者数。</li> <li>生徒からの進路相談実績。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1年生6回、2年生5回の進路講演会を実施。3年生3回の全体進路ガイダンス、3回センター試験ガイダンスを実施。3年生センター試験申込は113人。</li> <li>3年生の卒業時のアンケートで「満足している」「概ね満足している」が77%。</li> <li>2年間の校内模試の受験者数は1年38人(2回)、2年97人(3回)、3年116人(3回)の計251人が受験した。</li> <li>インターンシップ参加は延べ24人と昨年度より減少。</li> <li>2・3者面や総合の時間等で進路希望確認を行い、随時相談を受け付けた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>進路講演会の内容の検討と充実は不可欠。</li> <li>模試の延べ受験者数は伸びてきているが、大学進学希望者数との差がある。早いうちに意識し、準備に入るための指導を展開する必要がある。</li> <li>相模原地区で案内されるインターンシップで体験できる仕事内容が生徒の希望に合わず申込者の人数が伸びない。</li> <li>進路相談数件数について集約できなかった。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>インターンシップの活用は大事であるが、調査書の対応を進めたほうが良い。</li> <li>早くに進路が決定する専門学校に進む生徒によって生ずる学習環境の弊害は取り除く必要がある。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間の校内模試は1年38人(2回)、2年97人(3回)、3年116人(3回)の計251人が受験し受験者の延べ人数が上昇した。まだ大学入試受験者数には追いついていない数であった。</li> <li>インターンシップの参加数が少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業者テストの効果の検証やデータの活用法を改善するとともにガイダンスの内容の整備を行う。</li> <li>生徒が参加しなくなるような受け入れ企業の新規開拓を進めるとともに体験的な学習の機会の提供について研究する。</li> </ul>
4	地域等との協働	積極的な情報発信や貢献活動を展開し、保護者や地域の期待に応えるとともに、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生や保護者、地域の方の期待に応えるための積極的な情報発信、学校公開に取り組む。</li> <li>保護者や地域の方と連携・協働した貢献活動を通して、信頼される学校づくりを推進する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校説明会、公開授業、ホームページを活用した情報発信。</li> <li>PTAや警察と連携した交通安全指導、ステアードストレイトの実施、地域における各種活動への生徒の参加。</li> <li>部活動や委員会の活動を、地域や行政機関と連携して行い、本校の取り組みの理解を深め、地域と協働した貢献活動を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校説明会、公開授業への参加者数、ホームページの更新回数等。</li> <li>生徒が参加した活動の数、参加した生徒数、本校が主催する活動への地域の方々の参加数等。</li> <li>部活動や委員会活動で、地域や行政機関の要請を検討し、連携して取り組んだ内容及び回数、部活動による地域貢献。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校説明会1009/203/378名、生徒が前面に出ての活動が好評。公開授業300名、アンケート良かった92～97%。HP更新回数Topics23件、更新されないページあり。まちCOMI38件</li> <li>(3)学校へ行こう週間14名、地域貢献活動13件1138名、福祉施設12、小中学校34、地域行事189、防災149、国際協力7名。雪かき等で活躍。</li> <li>地域住民の要請により、生徒が校内の落ち葉を集め提供した。地域の防災訓練等に参加、今年初めて「上町自治会は何をすべきか」検討会に参加。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>実施時期が早いと本校を受験する前提の生徒が少ないので、調整する。また、生徒が前面に出ての説明、受付を工夫して進めることが効果的と考えられる。公開授業について、中学生へのアピール、授業内容について研究開発と検討する。</li> <li>(3)地域貢献活動について、内容のさらなる精選、充実、生徒自らの企画を工夫する。</li> <li>今後も本校生徒の取組を発信し、また地域に貢献することで、信頼される学校づくりを継続する必要がある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ボランティア参加は生徒の成長につながる良い機会なので積極的に参加をさせたほうが良い。また生徒にその参加の記録をつけさせたほうが良い。</li> <li>自治会の活動を知ることによって生徒自身の生活に生かせるのであれば、今後も協力していきたい。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の様々な取り組みにボランティア参加を促し、地域貢献につなげることができた。</li> <li>積極的にホームページに学校の取組状況を発信し学校説明会の来場者増加につながった。長く更新されないページもあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の要請にも応じながら、生徒が達成感や、自己承認感を体験できた住民の期待に添える内容を積極的に広報する。</li> <li>学校説明会の内容や説明の仕方等の検討を行うとともに実施時期の見直しをおこなう。</li> <li>ホームページの内容を積極的にチェックして更新を進める。</li> </ul>
5	学校管理・学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の資質能力、専門性の向上を図る。</li> <li>事故・不祥事防止と危機管理意識を高め、安全で安心できる教育環境の整備を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育力継承に向けたナレッジマネジメントの推進と、事故防止会議等の活用による風通しの良い職場づくりにより、学校運営のチーム力向上を図る。</li> <li>学校図書館等を含めた教育環境の整備や防災訓練実施等により安全・安心な学校づくりに取り組む。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教科の教材等のデータ管理を促進し知的財産の共有化を図る。</li> <li>電子情報のファイル管理が可能な共有フォルダの整備をはかる。</li> <li>事故・不祥事の防止に向けた校内研修の充実を図る。</li> <li>生徒の防災意識を深める防災訓練の実施身を守る方策をとらせる。</li> <li>生徒の清掃の励行と清掃点検の実施、PTAとの協働による校内環境整備。</li> <li>生徒の読書環境を整備し、授業との連携を図る。</li> <li>施設の老朽化に備えた修繕、トイレ等の改修による教育環境の整備。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>共通テストの割合の増加率。</li> <li>データの選別。ファイルの整理状況。</li> <li>教員主導の研修の展開及び必要に応じた外部講師による研修の実施。</li> <li>訓練の取組状況。</li> <li>清掃点検状況、実施回数</li> <li>授業、生徒の利用状況。</li> <li>修繕、改修実績。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>一部の教員による教材の共有化が図られた。</li> <li>共有フォルダによりファイル管理は進められた。</li> <li>職員視点の事故防止会議7回外部講師の研修1回。</li> <li>防災訓練では防災委員会を中心に防災体験を実施した。ストリートビューを使ってDIGの訓練を生徒、職員それぞれ行った。分教室との合同防災訓練を行った。</li> <li>大掃除の際、美化委委員を中心にしっかり行った。清掃点検は年間8回実施。PTAとの合同で水場の清掃を行った。</li> <li>読書環境の整備のため書架整理を行い授業との連携を深めることにつとめた。貸出件数は4036冊。授業利用数は週8時間。</li> <li>教室などの不具合を技能員と教員の協力で修理を行い教育環境を整備した。業者対応できるところは事務室がすぐに対応した。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>次年度、遅れている国語科社会科の共通テストを進める</li> <li>システム全体の整備</li> <li>管理職主導ではなく職員主体の事故防止会議の継続</li> <li>防災訓練においてストリートビューの使い方をもっと研究しきめ細かな校内研修の手法につなげる必要がある。</li> <li>特にトイレ、水場の清掃をよりきれいに行うとともに石鹸などがなくなるようにこまめに点検を行う。</li> <li>今後も授業や進学準備に対応できるように図書館資料の整理・充実を図る。</li> <li>日頃より職員に不具合箇所を注意してもらい早めに修理を行える体制の構築を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業を改善していくうえでもテストの共通化を進めるべきである。</li> <li>(4)防災訓練においてストリートビューを使ったDIGの訓練を実施したことは評価できる。小・中学校では緊急地震速報を使った訓練を行っているので、実際の自然災害等が発生した際の身を守るための訓練の一層の工夫をしたほうが良い。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告文書やグループ文書のファイル管理を進めることができた。テストの共通化は思うように進まなかった。</li> <li>ストリートビューを使ってDIGの訓練を生徒、職員それぞれ行い防災意識を高めることができた。</li> <li>管理職からの日常的な呼びかけ以外に職員視点の事故防止会議7回外部講師の研修1回実施し事故・不祥事を未然に防止できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テストの共通化が遅れている国語・社会で共通化を進める。</li> <li>実際の自然災害等が発生した際の身を守るための訓練の一層の工夫をはかる。</li> <li>今後も教員視点からの当事者意識を持った事故防止研修会を継続して行う。</li> </ul>